

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(1/12)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
東九州メディカルバレー構 想特区 (大分県、宮崎県)	正	4.1	4.5 進捗度 ・新規医療機器製造登録業者数 180%	3.8 規制の特例等 ・非治験臨床性能評価制度適用範囲の拡大 財政支援等 ・医工連携事業化推進事業 地域独自の取組 ・大分県医療機器産業参入加速化事業 ・宮崎県産学官連携促進・共同研究開発支援事業(医療関連) 等	4.0	<p>・全体としては順調に進捗している。焦点化された地域活性化の戦略と、広域的な支援との組み合わせがうまく機能している。</p> <p>・財政と金融における地域独自の取組は評価できるが、特区本来の役割である規制の特例措置や調整費の活用を工夫するとさらに効果が出ると思われる。</p> <p>・医療機器産業への新規参入や製品開発については、大分県・宮崎県両県独自の支援により促進されているが、必ずしも道筋は明確でない。具体的戦略を立てて前進していただきたい。</p> <p>・地域の特徴である「血液・血管を中心とする」医療機器産業の育成が進んでいるか把握するための評価手法(ie.全体に占める血液・血管関連の割合等)を考えてみても良いのではないか。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。